

近年、日本人女性の 11人に1人が乳がんにかかると言われています。^{※1}

もう他人事とは思えない！乳がんは女性が一生のうちで1番かかりやすいがんです。

乳がんは40～50代女性の がん死亡原因ナンバーワン^{※2}

日本では、年間約1万4千人以上の女性が乳がんで亡くなっています。40代と50代はとくに乳がんにかかりやすい年齢です。

セルフチェックだと遅いかも…

誰がなってもおかしくないですよ



自己触診では 見つからないケースがたくさんある

乳がんは自己触診だけでは見つけることが難しく、早期発見のためにはマンモグラフィによる検査を定期的に受けることが大切です。

マンモグラフィは こんな検査です。

乳がん検診のマンモグラフィっていったいなにをするのか、不安に思いませんか。

実際にどんな検査なのかを知っておけば、検診に行く時も安心！

マンモグラフィは、 いわゆるおっぱいの レントゲン

マンモグラフィは乳房X線とも呼ばれる、おっぱいのレントゲンです。プラスチックの板と撮影台に乳房を挟んで上からレントゲンを撮ります。



5秒くらい、じっとして…撮影終了！

1cm以下のがんも見つけられる 優れた画像検査法

マンモグラフィは、乳がん検診方法として効果があることが確認されている検査法で、早期の乳がんの検出に有用です。

検診で「異常あり」となった場合はその後必ず精密検査を受けてください。^{※3}

精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。

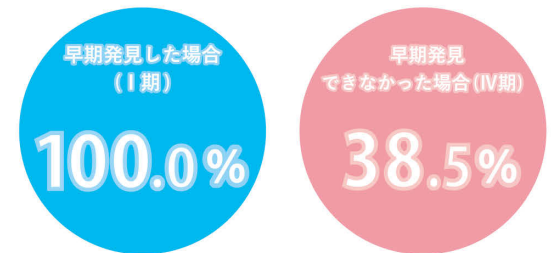
※3 検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つからない場合もあります。

このリーフレットは、国立がん研究センター希望の虹プロジェクトが作成しました。

乳がんは早期発見で 治療します。^{※4}

乳がんは早期に発見して治療すれば95%以上が治癒します。正しい知識を持って、専門の先生と一緒に定期的にチェックしていくことが大切です。

5年相対生存率



乳がん検診は2年に1度
必ず受診して下さい

多くのがんは、2年に1度の検診で早期発見できます。ただし、中には急激に大きくなるものもあるため、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液がでる、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は次の検診を待たずに病院へ行きましょう。



※4 ここでの「治る（＝治療）」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。出典：全がん協加盟施設における5年生存率（2008～2010年診断例）

※1 出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録全国合計によるがん罹患データ（2014年）

※2 出典：国立がん研究センター がん情報サービス「がん登録・統計」人口動態統計（2017年）